

種名 コウヤボウキ  
万葉時代の呼名 たまばはき・箒



詠人 大伴家持

万葉集二十卷 四四九三

始春の初音の今日の玉箒  
手に執るからにゆらく玉の緒

### 【現代訳】

初春をお祝いするめでたい玉箒よ、手に取っただけですがすがしくなんと美しい玉がゆらぐことよ

### 【コウヤボウキの解説】 キク科コウヤボウキ属の落葉小低木

高野山で茎を束ねて箒の材料としたのでこの名がある。関東から九州までの山林の日当たりのよいところに見られる。高さは数十 cm で茎は細いが硬い。葉は幅広い卵型。頭状花は筒状花のみ十数個からなり、白い房状、長さ1.5cmほどで、秋に1年目の茎の先に咲く。玉箒(たまぼうき、古くは「たまははき」と呼ばれて古くから箒の材料とされ、正月の飾りなどにもされた。